

米国 先行き不安による大幅悪化で株安、円高、長期債利回り低下 (10年2月消費者マインド)

発表日: 2010年2月23日(火)

～雇用判断は厳しい雇用情勢が持続していることを示唆～

第一生命経済研究所 経済調査部
主任エコノミスト 桂畑 誠治
03-5221-5001

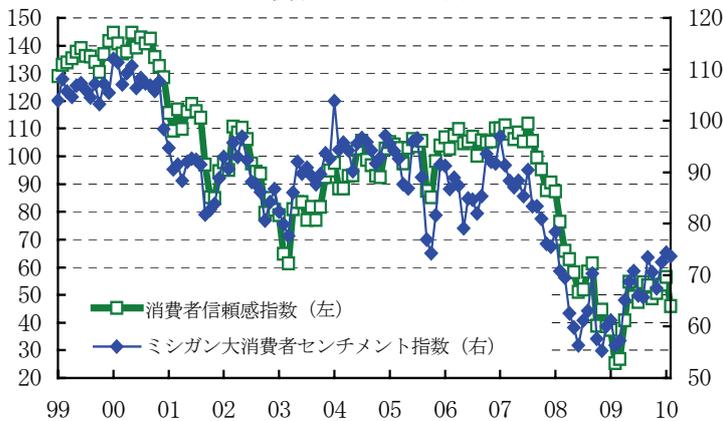
2月のCB消費者信頼感指数は46.0と前月比▲10.5ポイントの大幅な悪化

CB消費者信頼感指数は、46.0(前月56.5)と前月比10.5ポイント低下し市場予想の55.0を大幅に下回った。深刻な金融危機への懸念が強まった昨年2月以来の大幅な低下。失業率の高止まりなど足下の厳しい雇用情勢に加えて、失業率が高止まりを続けるとの多くの経済見通しを受け、先行きの景気、雇用、収入に対する悪化懸念が強まったため、消費者マインドが大幅に低下したと考えられる。また、2月はミシガン大学消費者センチメントも期待指数の低下により73.7と悪化するなど、多くの調査で消費者マインドの悪化が示されている。このように2月の各調査が消費者マインドの悪化を示し、特にCB消費者信頼感指数が前月から大幅に低下したこと、依然としてマインドが低い水準にとどまっていることから、2月の個人消費は前月比で減少する可能性がある。

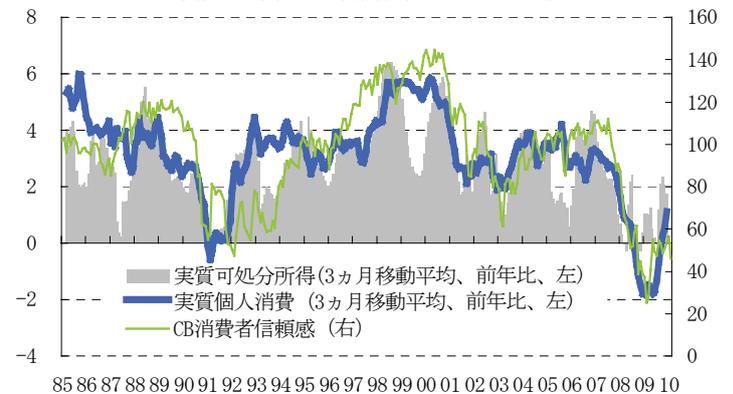
市場予想を下回った同統計発表直後の市場の反応をみると、債券市場では10年債利回りが低下、株価先物は下落、為替市場ではドルが対円で下落した。

今後数ヶ月は、景気回復が続くものの厳しい雇用情勢などを背景に、現状指数は小幅上昇にとどまろう。一方、期待指数は景気回復期待の強まりによって上昇するが、既にかなり上昇しており改善余地は限定的。このため、消費者マインドは上昇するものの、改善ペースが鈍いうえ、低い水準にとどまると予想されるため、個人消費の拡大ペースを抑制する要因になると見込まれる。

消費者マインドの動向



(%) 実質個人消費と可処分所得、マインドの推移



(出所) 米商務省、CB

消費者信頼感 (Consumer Confidence)

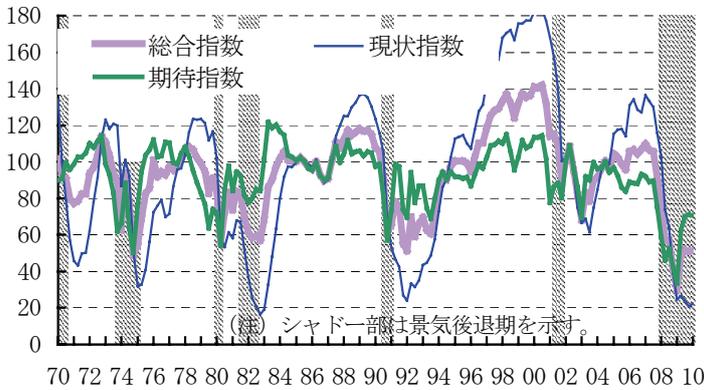
	消費者信頼感指数			雇用判断		半年後の景況感		半年以内の購入計画		ミシガン大学消費マインド		
		期待指数	現状指数	充分	困難	良くなる	悪くなる	自動車	住宅	期待	現状	
09/04	40.8	51.0	25.5	4.9	46.6	15.7	24.4	4.9	2.6	65.1	63.1	68.3
09/05	54.8	71.5	29.7	5.8	43.9	22.5	18.0	5.7	2.8	68.7	69.4	67.7
09/06	49.3	65.5	25.0	4.5	44.8	20.9	20.4	4.7	2.6	70.8	69.2	73.2
09/07	47.4	63.4	23.3	3.7	48.5	18.4	19.0	4.8	2.1	66.0	63.2	70.5
09/08	54.5	73.8	25.4	4.3	44.3	22.2	15.2	5.3	3.0	65.7	65.0	66.6
09/09	53.4	73.7	23.0	3.6	47.0	21.3	14.6	4.5	2.5	73.5	73.5	73.4
09/10	48.7	67.0	21.1	3.5	49.4	20.8	18.2	4.7	2.3	70.6	68.6	73.7
09/11	50.6	70.3	21.2	3.1	49.2	19.7	14.6	4.5	2.1	67.4	66.5	68.8
09/12	53.6	75.9	20.2	3.1	48.1	21.2	11.8	3.9	1.7	72.5	68.9	78.0
10/01	56.5	77.3	25.2	4.4	46.5	20.7	12.7	5.2	2.4	74.4	70.1	81.1
10/02	46.0	63.8	19.4	3.6	47.7	16.7	15.3	4.8	2.7	73.7	66.9	84.1

(出所) The Conference Board, University of Michigan

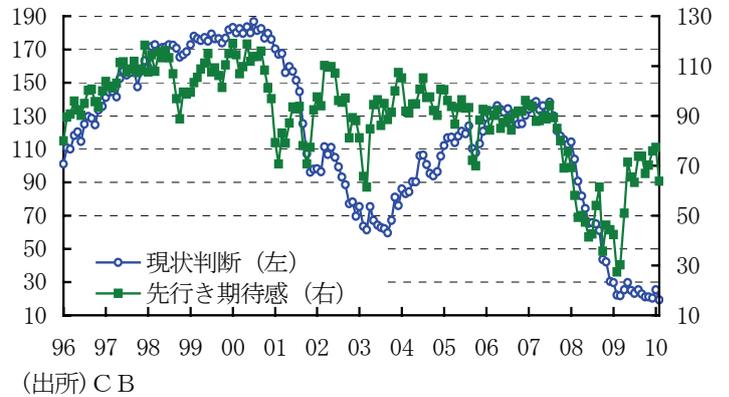
(注) 「雇用判断」、「半年後の景況感」、「購入計画」の単位は%で、全体に占める割合を指す。

現状指数が前月比▲5.8p低下、期待指数が同▲13.5p低下
 内訳では、現状指数が前月比▲5.8ポイント低下し、期待指数が同▲13.5ポイント低下した。現状指数は、足下の経済・雇用情勢の厳しさが影響した。一方、期待指数は、景気の先行きに対する楽観的な見方が弱まり、雇用の先行きに対する悲観的な見方が強まったため低下した。

消費者信頼感指数の推移(四半期)

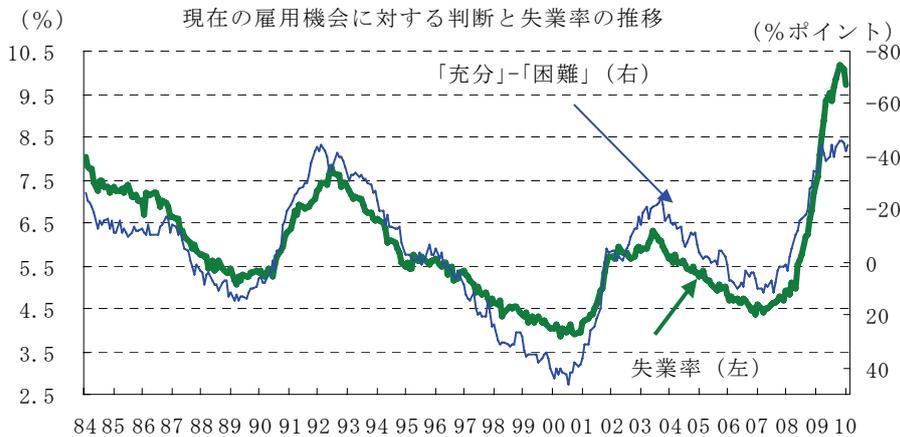


消費者信頼感指数の推移



現状判断では「雇用」、「景気」がマイナス幅を拡大
 現状指数の構成項目では、「雇用」、「景気」がマイナス幅を拡大し現状指数全体が悪化した。詳細では、現在の雇用環境に対する悲観的な見方は強まった【現在の雇用機会に対する判断の「充分」-「困難」が▲44.1と前月の▲42.1からマイナス幅を拡大】。さらに、現在の景気に対する悲観的な見方が強まった【現在の景気に対する判断の「良い」-「悪い」が▲40.1と前月の▲36.2からマイナス幅を拡大した】。

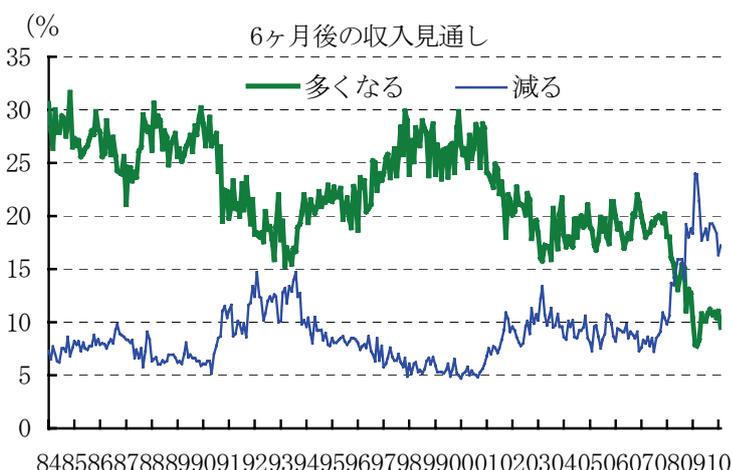
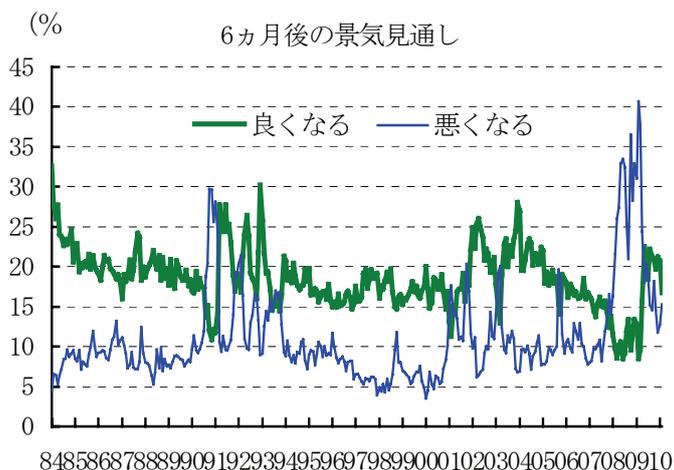
現在の雇用機会に対する判断（「充分」-「困難」）は、大幅なマイナス水準にとどまっていること等から、2月の失業率は9.8%前後への上昇が予想される。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

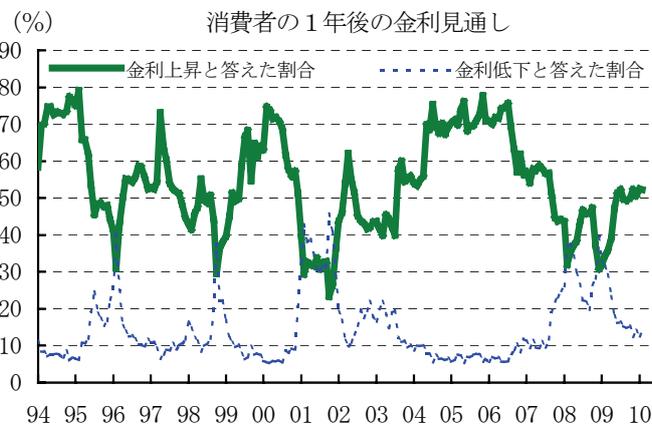
期待では「景気」がプラス幅を縮小し、「雇用」、「収入」がマイナス幅を拡大

期待指数の構成項目では、「景気」がプラス幅を縮小し、「雇用」、「収入」がマイナス幅を拡大したため、期待指数全体も大幅に悪化した。詳細をみると、景気の先行きに対する楽観的な見方が弱まった【6ヵ月後の景気に対する見方の「良くなる」-「悪くなる」が+1.4と前月の+8.0からプラス幅を縮小した】。雇用の先行きに対する悲観的な見方が強まった【6ヵ月後の雇用に対する見方の「多くなる」-「少なくなる」が▲11.2と前月の▲3.1からマイナス幅を拡大】。加えて、先行きの収入については悲観的な見方が強まった【6ヵ月後の収入が「増加する」-「減少する」が▲7.7と前月の▲5.3からマイナス幅を拡大】。



インフレ見通しは高止まり

インフレに関する調査では、2月のインフレ見通しが5.2%（前月5.3%）と小幅低下にとどまり、高止まりしている。また、1年後の金利見通しでは景気の先行きに対する楽観的な見方が弱まったが、金利の低下余地が小さいことなどから、金利が上昇するとの見方が強く、目先の耐久財、住宅需要を下支えする要因となる。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。